

新規就農者が主役！アスパラガス産地の新たな動き

1. 産地の概要(R6年)

【生産組織】 JAしまね出雲アスパラガス部会

【生産者数】 27名

【栽培面積】 約6.7ha

【出荷量】 約69t

【販売額】 89,656千円



ハウス内



出荷製品

2. 取組の経過及び概要

(1)リースハウス整備

H28年以降、JAが「産地パワーアップ事業」を活用し、リースハウス147a(11棟)を整備。

(2)パッキングセンターの機能強化

H18年にJAが「パッキングセンター」を整備。

R3年には、選別能力が優れる高性能な調製選別機を導入し、更なる省力化・高品質化を実現。



パッキングセンター

(3)技術水準のレベルアップ

栽培技術の指針を明確にするために「収量向上マニュアル～収量4t/10aを目指して～」を作成し、部会員全体の技術水準を向上。

R6年より、有利販売に向けて試験的に減農薬・減化学肥料栽培の取組を開始。

(4)新規就農者の受入体制を強化

新規就農者等の担い手を確保するため、定住財団や農林大学校と連携し、オンライン産地ツアーや就農ミニツアーを開催。

R4年、出雲市の就農チャレンジ講座(アグリビジネススクール)にアスパラガスコースを新設。

(5)青年部の設置

若い部会員の増加に伴い、部会内に青年部を設置。新規就農者の受入や経営確立までのサポート、技術の研鑽など積極的に活動。



青年部

3. 取組の成果

(1)新規就農者確保による産地の拡大

リースハウスによる初期投資の軽減、パッキングセンターの機能強化による出荷調製に係る労力削減、ハウス栽培による収量・品質の安定、これらを踏まえた収支モデルを作成し、就農希望者へ提示することで、R6年までの11年間に新規就農者16名を確保。

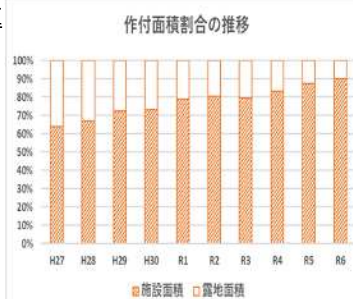
現在では、**生産者の4割以上**が新規就農者。

販売額もR6年は、89,656千円と前年比103%に増加。



(2)収量・品質の向上を目的とした施設栽培の拡大

R6年の栽培面積6.7haに占める施設栽培面積は、6haと8割を超え、施設栽培面積が拡大したことで、収量や品質の向上に大きく貢献。



代表者から一言

JA取扱販売額1億円の早期達成を目指します！

神田真里 部会長

4. 課題と今後の取組方向

- (1)中核的経営体の育成による産地基盤の強化、栽培面積の拡大
- (2)スマート農業(環境モニタリング)の導入による新たな管理基準の確立とタイムリーな情報提供の実施